

北東アジア地域におけるアキノキリンソウ(広義)の変異と地理的分布

著者	高須 英樹, 林 一彦, 河野 昭一
著者別表示	Takasu Hideki, Hayashi Kazuhiko, Kawano Shoichi
雑誌名	植物地理・分類研究(北陸の植物)
巻	28
号	2
ページ	53-62
発行年	1980-11-15
URL	http://doi.org/10.24517/00056361



高須英樹*・林 一彦**・河野昭一***：北東アジア地域 におけるアキノキリンソウ(広義)の変異と地理的分布

Hideki TAKASU*, Kazuhiko HAYASHI** and Shoichi KAWANO***:
A Study on the Variation in Gross Morphology and Geography of
Solidago Virgaurea L. *sensu lato* in Northern Pacific Asia

はじめに

日本産アキノキリンソウ(広義)の種内分化の機構の解明を意図とした研究の一環として、日本列島各地におけるアキノキリンソウ(広義)地域集団の外部形態にみられる変異、生態、地理的分布などに関するデータが集積されつつある(河野・高須, 1972; 高須, 1975; 林, 1976, 1977, 1978)。この報文は、これまで詳細な研究がなかった北東アジア地域、とりわけ北海道・サハリン・千島列島・カムチャッカなどの諸地域におけるこの種の外部形態にみられる変異とその分布について、北海道大学農学部腊葉室(SAPA)に蔵されている標本に基づいて得られた知見を報告するものである。いうまでもなく、今日、サハリン・千島列島・カムチャッカなどの諸地域より新たな資料を得ることは極めて困難であるから、北海道大学腊葉室に所蔵されているこれらの地域より採集された標本は極めて貴重なものであり、この地域の植物の系統分類学的研究、植物地理学的研究にとって必要不可欠のものである。

材料と方法

この研究において用いられた標本はすべて北海道大学農学部腊葉室(SAPA)に所蔵されているものである。

測定された形質は、草丈・茎の太さ・葉長および葉幅・葉柄の長さ・鋸歯数・節間の長さ・花序の長さ(厳密には、花茎上部の枝分れ部分の長さ)・頭状花冠の長さ・小花数・総苞片数・雌ずいの長さ・舌状花冠の長さ・冠毛の長さ・総苞内片(最内片)および外片(最外片)の長さ・内片と外片の比などである。

結果と考察

分布と外部形態の変異

測定された外部形態諸形質のなかで重要とみなされるものを、分類群ごとにまとめたのがTable 1である。

分 布：この結果からも明らかのように、北海道、サハリン、千島列島、カムチャッカ半島の諸地域にはアキノキリンソウ(*Solidago Virgaurea* L.)の2つの亜種、すなわちミヤマアキノキリンソウ(ssp. *leiocarpha* (BENTH.) HULTEN) およびオオアキノキリンソウ(ssp. *gigantea* (NAKAI) KITAMURA) が生育・分布し、アキノキリンソウ(ssp. *asiatica* KITAMURA) は存在しない。****

ミヤマアキノキリンソウは従来山地・高山型とされ、一方オオアキノキリンソウは北海道西南部、本州東北地方の海岸草原並びに平地型とされてきたが、それぞれの分布域は当初考えられていたよりも広い範囲にわたっていることが明らかになってきた。

すなわち、オオアキノキリンソウは北海道西南部のみならず北海道東部および北部、利尻島・礼文島、南千島クナシリ島の低地にも広く分布することが明らかになった。一方、ミヤマアキノキリンソウは従来から考えられていたように北海道では高山・山地を中心に分布し、東部、北部では一部低地にも出現する。また、従来から考えられていたように、千島列島全域とカムチャッカ半島、さらにはサハリンに広く分布することが判明した。

外部形態の変異：オオアキノキリンソウとミヤマアキノキリンソウを区別する形質にはわずか3形質が認められるに過ぎない。その1つは総小花数で、オオアキノキリンソウでは18.3~20.4であるのに対し

* Department of Biology, Faculty of Education, Wakayama University, Wakayama 640

和歌山大学教育学部生物学教室

** Biological Institute, Osaka Gakuin University, Suita, Osaka 564

大阪学院大学生物学研究室

*** Department of Biology, Toyama University, Toyama 930

富山大学教養部生物学教室

**** 2, 3まぎらわしい型があるが、本州の低地に特有なアキノキリンソウ(ssp. *asiatica*)に相当するかどうかの検討は今後の研究に待たねばならない。

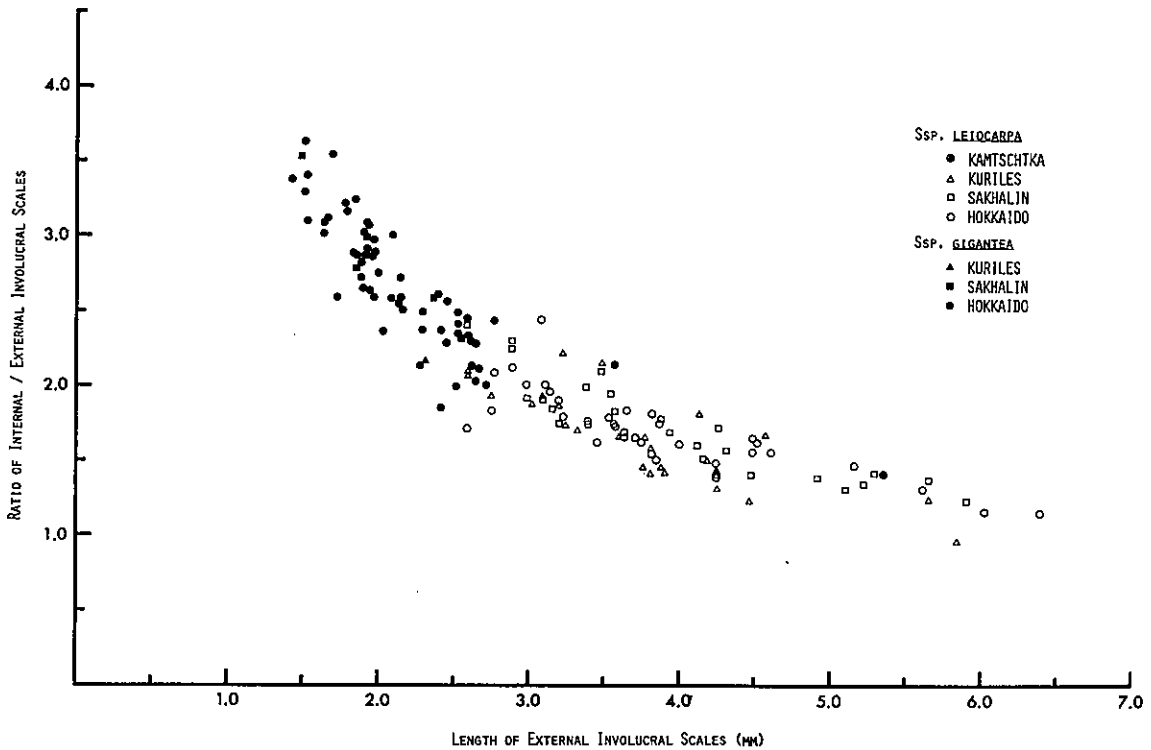


Fig. 1. Scatter diagram showing variations in the involucre scales of *Solidago Virgaurea* ssp. *leiocarpa* and ssp. *gigantea*. Horizontal axis represents the length of external involucre scales (in mm) and vertical axis ratio of internal/external involucre scales.

て、ミヤマアキノキリンソウは25.0~27.5の値を示し、少なくともこの形質に関する限りは不連続な変異を示す (Table 1)。

総苞内片と外片の長さ、並びに内片と外片の比をみると、これらの諸形質においてもこの両者には明瞭な差異のあることがわかる。すなわち、この地域のオオアキノキリンソウの最内片の長さは4.95~5.60mmであるのに対して、ミヤマアキノキリンソウの内片は6.01~6.90mmの値を示す。また、最外片の長さはオオアキノキリンソウでは2.03~2.31mmであるのに対して、ミヤマアキノキリンソウでは3.78~4.00mmの値を示す。従って、これら2亜種における総苞最内片と最外片の比をみるとその差異はさらに明瞭である。オオアキノキリンソウにおいてはその比が2.16~2.84であるのに対し、ミヤマアキノキリンソウは1.65~1.89の値を示す (Table 1)。この関係をまとめて示したのがFig. 1である。

総苞片の形態についてさらに今回得られた新たな知見はミヤマアキノキリンソウの総苞外片の大きさや形態に関してである。KITAMURA (1937) によ

ると、オオアキノキリンソウの総苞外片は卵形で鋭頭、その長さは1~1.5mm、内片は線状皮針形で鋭頭、その長さは5mmと記載されている。一方、ミヤマアキノキリンソウの総苞外片は卵状皮針形、鋭頭または漸先型鋭頭、その長さは2~3mmであり、内片は皮針形で鋭頭または漸先型鋭頭、長さは6~6.5mmと記載されている (北村ほか, 1957; 大井, 1975)。

Fig. 2, 1~4には北海道内の4地点、雌阿寒岳、狩場山、利尻富士、暑寒別岳より採集されたミヤマアキノキリンソウの総苞内片と外片の形態が示されている。また、Fig. 3, 1~8にはサハリンの4地点、Jimmtaki, Kashipo, Sikka-A およびB, 千島列島の4地点、ラシュワ島、ケトイ島、シムシュ島、クナシリ島より採集されたミヤマアキノキリンソウの総苞内片と外片の形態が図示されている。これらの図からも明らかかなように、ミヤマアキノキリンソウの総苞外片の大きさ並びに形態は著しく変異に富んでおり、特に北海道暑寒別岳、サハリン Sikka-Bのように外片の方が内片よりも大きい

* 林, 1977のFig. 7 (a~d), および1978のFig. 3, 4の縦軸の表示が external/internal となっているが、これは internal/external の誤りであるので訂正しておきたい。なお、横軸の単位はmmである。

Table 1. Measurements of various gross morphological characters of *Solidago Virgurea* s. lat. based on herbarium specimens from Hokkaido, Sakhalin, the Kurile Islands, and Kamtschatka Peninsula. All specimens are preserved in SAPA. *Standard Deviation; **Standard Error; ***Coefficients of Variation

Localities	N	Plant Height (cm)	Stem Diameter (mm)	Length of Leaves (cm)	Length of Petioles (cm)	Width of Leaves (cm)	No. of Serrations	Length of Maximum Internodes (cm)	Length of Upper Branches of Stem (cm)
<i>leiocarpa:</i>									
KAMTSCHATKA	(1)	68.50	3.00	12.20	5.70	3.00	(36.00)	6.00	16.00
KURILES	(23)	24.75 ± 12.94* ± 3.14*** 52.29***	2.87 ± 0.64 ± 0.14 22.25	7.83 ± 1.84 ± 0.38 23.51	2.89 ± 0.98 ± 0.19 32.23	2.60 ± 0.79 ± 0.16 30.40	23.14 ± 7.96 ± 1.66 34.38	2.74 ± 1.10 ± 0.24 40.21	6.23 ± 4.37 ± 0.91 70.10
SAKHALIN	(23)	40.13 ± 14.54 ± 3.03 36.23	2.63 ± 0.57 ± 0.12 21.58	9.64 ± 2.51 ± 0.58 26.04	3.10 ± 1.26 ± 0.29 40.51	2.10 ± 0.86 ± 0.20 40.93	19.68 ± 6.45 ± 1.48 32.79	4.51 ± 1.63 ± 0.36 36.15	12.22 ± 8.04 ± 1.68 65.82
HOKKAIDO	(25)	33.33 ± 16.20 ± 3.31 48.59	2.60 ± 0.63 ± 0.13 24.11	9.80 ± 2.84 ± 0.62 28.92	3.60 ± 1.37 ± 0.30 38.08	3.22 ± 1.04 ± 0.22 32.25	20.13 ± 9.48 ± 2.12 47.09	3.34 ± 1.81 ± 0.37 54.09	8.17 ± 4.06 ± 0.83 49.64
<i>gigantea:</i>									
Isl. KUNASHIRI	(6)	35.34 ± 9.90 ± 4.43 28.03	2.98 ± 0.65 ± 0.29 21.80	8.67 ± 3.06 ± 1.76 35.25	2.57 ± 1.25 ± 0.72 48.72	2.23 ± 1.01 ± 0.58 45.30	18.67 ± 13.32 ± 7.69 71.34	3.14 ± 1.73 ± 0.77 55.10	13.36 ± 9.67 ± 4.33 72.41
SAKHALIN	(5)	30.60 ± 10.41 ± 4.66 34.03	2.26 ± 0.61 ± 0.27 27.02	4.75 ± 0.35 ± 0.25 7.44	1.50 ± 0.25 4.25	1.10	15.50	3.22 ± 0.91 ± 0.41 28.16	10.98 ± 4.92 ± 2.20 44.81
HOKKAIDO	(27)	44.16 ± 24.89 ± 5.19 56.36	2.70 ± 0.75 ± 0.16 27.61	10.80 ± 4.00 ± 0.82 37.02	4.07 ± 2.01 ± 0.41 49.64	3.00 ± 1.54 ± 0.31 51.36	22.87 ± 7.10 ± 1.48 31.02	3.84 ± 1.80 ± 0.35 46.93	11.21 ± 6.54 ± 1.28 58.33
<i>leiocarpa:</i>									
KAMTSCHATKA	(3)	25.60 ± 5.77 ± 3.33 21.76	19.17 ± 3.40 ± 1.96 17.76	6.14 ± 0.34 ± 0.20 5.51	7.62 ± 1.47 ± 0.85 19.28	5.32 ± 0.22 ± 0.13 4.12	9.43 ± 1.25 ± 0.72 13.27	6.90 ± 1.16 ± 0.67 16.75	3.85 ± 1.39 ± 0.80 36.14
KURILES	(26)	27.52 ± 5.84 ± 1.14 21.21	19.98 ± 3.00 ± 0.59 15.00	5.42 ± 0.39 ± 0.09 7.15	6.91 ± 0.39 ± 0.11 5.61	4.41 ± 0.36 ± 0.08 8.14	7.21 ± 0.83 ± 0.20 11.56	6.01 ± 0.70 ± 0.14 11.64	3.78 ± 0.81 ± 0.16 21.55
SAKHALIN	(24)	26.73 ± 5.66 ± 1.24 21.19	19.98 ± 2.70 ± 0.55 13.51	5.74 ± 0.38 ± 0.10 6.70	7.38 ± 0.65 ± 0.19 8.75	4.73 ± 0.40 ± 0.09 8.45	8.28 ± 1.06 ± 0.28 12.74	6.60 ± 0.53 ± 0.11 8.09	4.00 ± 0.95 ± 0.19 23.79
HOKKAIDO	(38)	25.03 ± 4.21 ± 0.70 16.82	19.26 ± 4.49 ± 0.73 23.34	5.47 ± 0.42 ± 0.08 7.61	6.99 ± 0.66 ± 0.13 9.43	4.41 ± 0.39 ± 0.07 8.75	7.57 ± 0.80 ± 0.16 10.53	6.27 ± 0.67 ± 0.11 10.74	3.85 ± 0.88 ± 0.14 22.73
<i>gigantea:</i>									
Isl. KUNASHIRI	(6)	18.25 ± 2.87 ± 1.44 15.74	20.83 ± 2.04 ± 0.83 9.80	4.97 ± 0.29 ± 0.14 5.82	5.68 ± 0.04 ± 0.02 0.73	3.60 ± 0.06 ± 0.03 1.71	6.43 ± 0.12 ± 0.07 1.82	4.95 ± 0.43 ± 0.18 8.72	2.31 ± 0.26 ± 0.11 11.12
SAKHALIN	(5)	20.40 ± 4.76 ± 2.13 23.34	19.30 ± 2.44 ± 1.09 12.64	5.68 ± 0.49 ± 0.24 8.59	6.98 ± 0.54 ± 0.27 7.70	4.96 ± 0.46 ± 0.23 9.33	7.99 ± 0.46 ± 0.23 5.72	5.60 ± 0.40 ± 0.18 7.22	2.03 ± 0.42 ± 0.19 20.90
HOKKAIDO	(55)	18.55 ± 3.53 ± 0.48 19.06	19.88 ± 2.10 ± 0.28 10.55	5.28 ± 0.34 ± 0.05 6.44	6.65 ± 0.58 ± 0.11 8.70	4.28 ± 0.32 ± 0.04 7.45	7.19 ± 0.71 ± 0.10 9.85	5.49 ± 0.49 ± 0.07 8.94	2.10 ± 0.37 ± 0.05 17.64

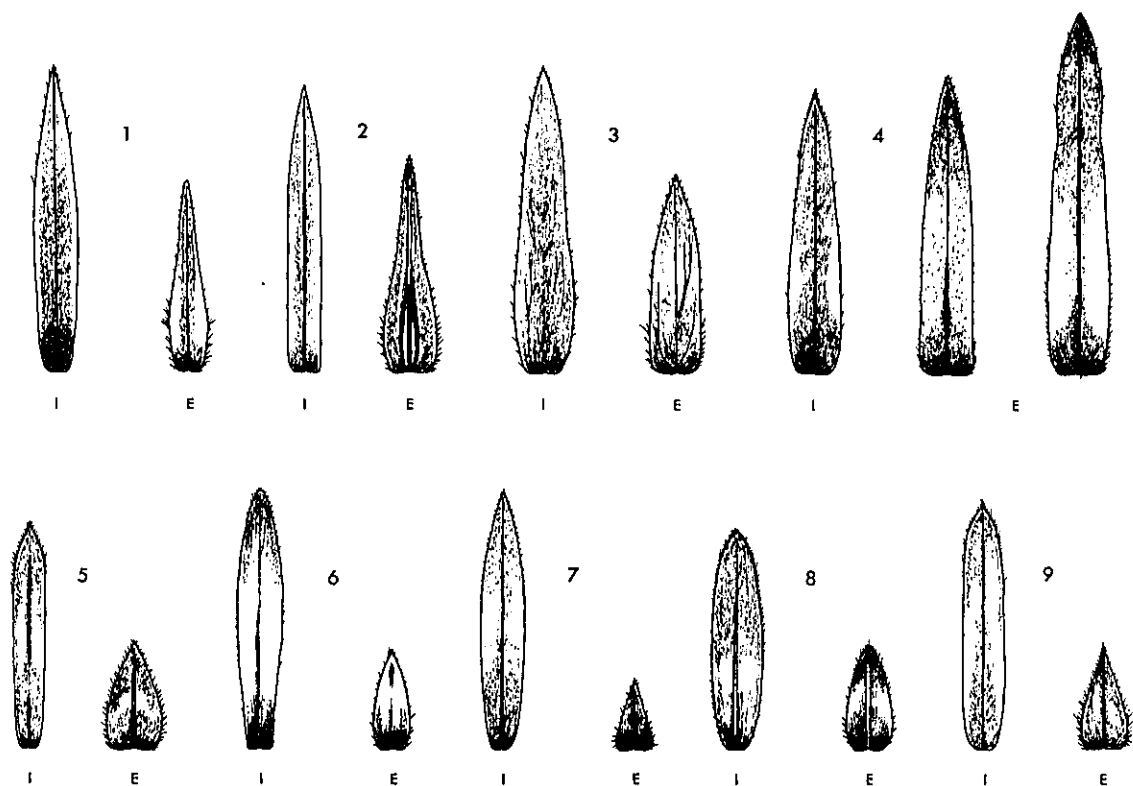


Fig. 2. Involucral scales of *Solidago Virgaurea* s. lat. from Hokkaido. 1-4: ssp. *leiocarpa* (1. Mt. Meakan, T. Kawakami, Aug. 1897; 2. Mt. Kariba, T. Misumi & S. Kawano, Aug. 9, 1956; 3. Mt. Rishiri, Isl. Rishiri, B. Yoshimura, July 31, 1935; 4. Mt. Shokanbetsu, I. Yamamoto, Aug. 11, 1935) 5-9: ssp. *gigantea* (5. Mt. Ohira, T. Igarashi & S. Watanabe, Aug. 31, 1954; 6. Mt. Tokachi, M. Tatewaki, Sept. 5, 1949; 7. Zenibako, Yabe et al., Sept. 8, 1931; 8. Hidaka, Abrakoma, Tokubuchi, Aug. 18, 1892; 9. Tomakomai, K. Ito, Sept. 18, 1970) I: internal involucres; E: external involucres

ものさえある。このような大形の外片をつける個体は特に北海道北部とサハリンに多い。一方、千島列島の植物のなかにもこれに近い型 (Fig. 3, 8-クナシリ島) があるが、むしろ外片はやや小型の卵型で、先端が著しく漸先型であるものが多い。このように北海道を含む北部太平洋地域に分布するミヤマアキノキリンソウの総苞片の変異はこの地域に特有な傾向を示すことが明らかとなってきた (注. 林, 1976, 1977, 1978)。

Fig. 4並びにFig. 5は、調査地域内より得られたオオアキノキリンソウ並びにミヤマアキノキリンソウの総小花数 (舌状花+筒状花) と総苞外片の長さ と総苞内片/外片の比の関係を示したものである。これらの図からも明らかなように、両分類群の形質のなかで総小花数、すなわち頭花の大きさと、頭花の一形質である総苞外片の形態との間にやや強い相関のあることがわかる。

形質間の相関: Fig. 6並びにFig. 7は、総苞内片の長さ(A)、外片の長さ(B)、内片/外片の比(C)、冠毛の長さ(D)、小花数(E)、総苞片の数(F)の6

形質間の関係を示したポリグラフである。

Fig. 6-1および2は、サハリン Sikkaおよび北海道大雪山系より採集されたミヤマアキノキリンソウ、Fig. 6-3は北海道支笏湖畔より採集されたオオアキノキリンソウのポリグラフを示す。また、Fig. 7は今回調べた全地域の標本のポリグラフをまとめて示したものである。

これらの結果を総合してみると、まず北海道の低地にはオオアキノキリンソウが多く、一方山地および高山帯にはミヤマアキノキリンソウがごく普通に生育・分布することが明らかである。さらに、この両亜種は少くとも頭状花序の大きさ、小花数、総苞内外片の大きさ・形態などの点で比較的明瞭な差異があり、独立した分類群として区別が可能である。

従来からある腊葉標本は、栄養器官、とりわけ根茎などの地下器官の形態を知る上では必ずしも満足すべき状態で採集されたものが少なく、また花期のさまざまな段階のものなどが含まれていたりしてわれわれが期待する情報をすべて提供してくれるものではないが、適切な形質を撰択し、定量的方法を用

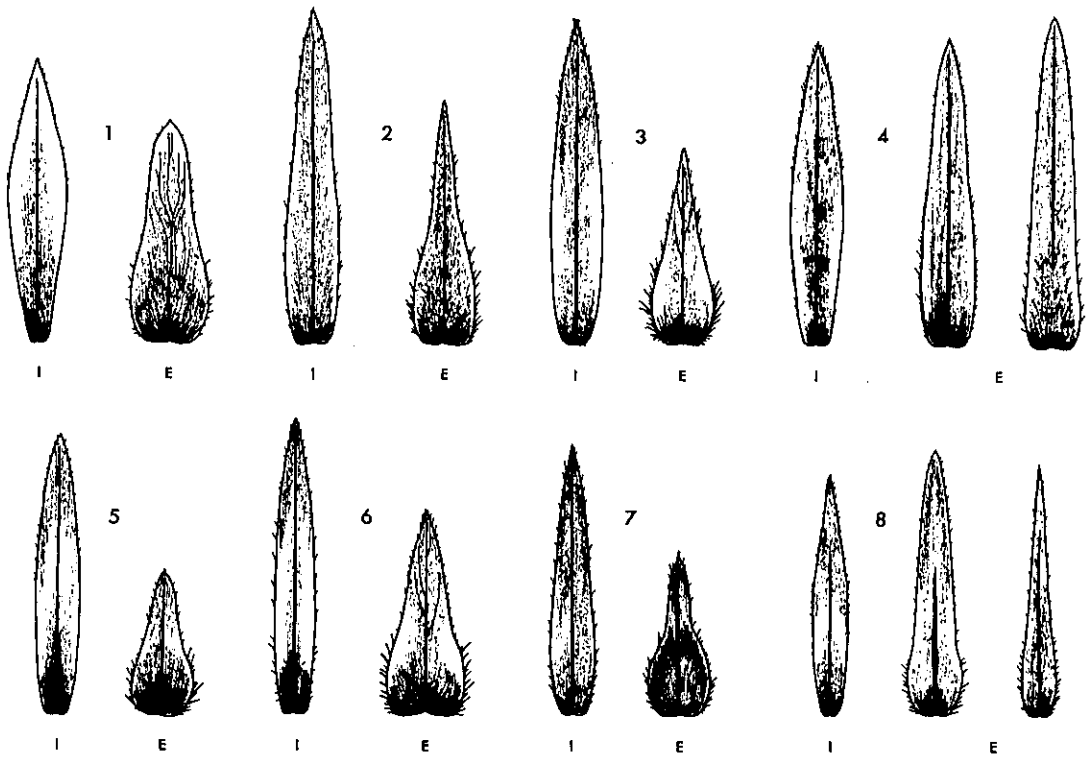


Fig. 3. Involucre scales of *Solidago virgaurea* ssp. *lelocarpa* from Sakhalin and the Kurile Islands (1-4: Sakhalin 1. Jimmtaki, K. Miyabe & T. Miyagi, July 24, 1906; 2. Mt. Kashipo, H. Abumiya & G. Takee, Aug. 5, 1932; 3. Upper Rukutama River-Mt. Sekkai, Yoshimura & Hara, July 14, 1937; 4. Chirikoro, Sikka, B. Yoshimura, Aug. 6, 1936 5-8: the Kuriles 5. Isl. Rashwa, Tatewaki & Tokunaga, Aug. 6, 1928; 6. Isl. Ketoi, Tatewaki & Takahashi, Aug. 17, 1929; 7. Isl. Shimushu, M. Aizawa, June 13, 1900; 8. Isl. Kunashiri, Shinagawa & Takahashi, July 22, 1935) I: internal involucre; E: external involucre

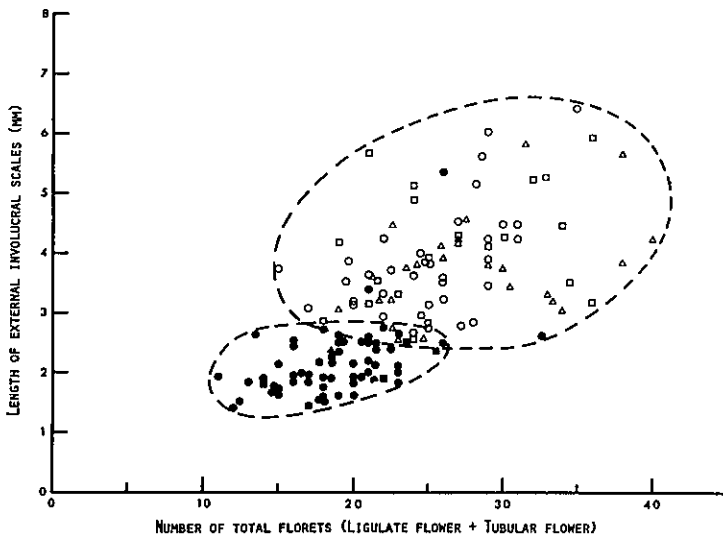


Fig. 4. Scatter diagram showing variations in number of total florets (ligulate flowers + tubular flowers) and in length of external involucre scales (in mm)

いることによって、将来詳細な自然集団の解析を進める上で必要な、重要な知見をもたらしてくれるので、他の地域の標本についてもさらに有効な利用の仕方が考えられるべきである。

北海道におけるアキノキリンソウ群（広義）の分布・生態・変異性、そして地域集団の分化の過程や機構などに関しては、さらに今後の詳細な自然集団の解析結果を待たなければならないことは改めて指摘するまでもないことであろう。

謝 辞

本研究のためにサハリン・千島列島・北海道より集められた貴重な多数の標本を貸与された北海道大学大学院環境科学科伊藤浩司教授に心から御礼申しあげる次第である。

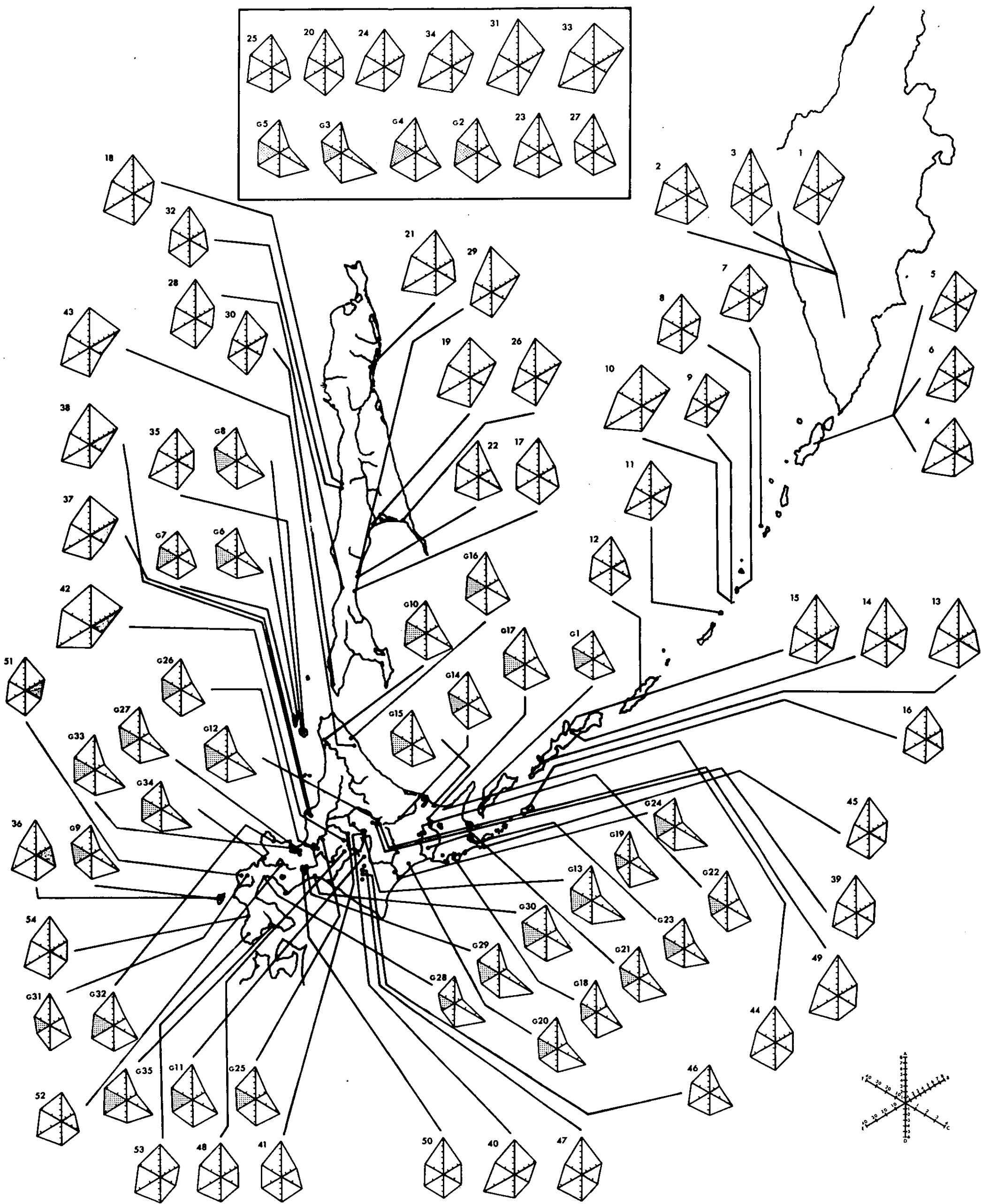


Fig. 7. Polygraphs showing variations in six characters of *ssp. leiocarpa* and *ssp. gigantea* in Northern Pacific Asia. Symbols and explanations, see Fig. 6.
Sources of materials: 1-54: *ssp. leiocarpa* 1-3: Kamtschatka; 4-5: Isl. Paramushir; 7: Isl. Ekaruma; 8: Isl. Rashwa; 9-10: Isl. Ushishiru; 11: Isl. Ketoi; 12: Isl. Urup; 13-15: Isl. Etorofu; 16: Isl. Shikotan; 17-34: Sakhalin; 35-54: Hokkaido (35: Mt. Rishiri; 36: Isl. Okushiri; 37: Mt. Shokanbetsu; 38: Mt. Gunbetsu; 39: Mt. Daisetsu; 40: Mt. Tokachi; 41: Mt. Furano; 42: Mt. Ashibetsu; 43: Mt. Horonupuri; 44: Mt. Mashu; 45: Nemuro; 46: Mt. Poroshiri; 47: Mt. Tottabetsu; 48: Mt. Yubari; 49: Mt. Kita-Otohuke; 50: Mt. Eniwa; 51: Mt. Kariba; 52: Mt. Yotei; 53: Mt. Daisengen; 54: Esashi G1-G35: *ssp. gigantea* G-1: Isl. Kunashiri; G2-G5: Sakhalin; G6-G7: Isl. Rebut; G8: Isl. Rishiri; G9: Isl. Okushiri; G10: Sarobetsu; G11: Nisho-toge; G12: Soukkyo; G13: Mt. Furano; G14: Abashiri, Okedo; G15: Lake Tofutsu; G16: Hamatobetsu; G17: Mt. Mokoto; G18: Kushiro, Barasan-misaki; G19: Kushiro, Kamioboro; G20: Shaku-betsu; G21: Setsuri; G22: Mt. Meakan; G23: Nemuro, Hanasaki; G24: Ohotsu; G25: Bibai; G26: Horomui; G27: Sapporo; G28: Shizukari; G29: Morappu; G30: Tomakomai; G31: Mt. Ohira; G32: Yoichi; G33: Zenibako; G34: Setta-Asahi; G35: Hakodate

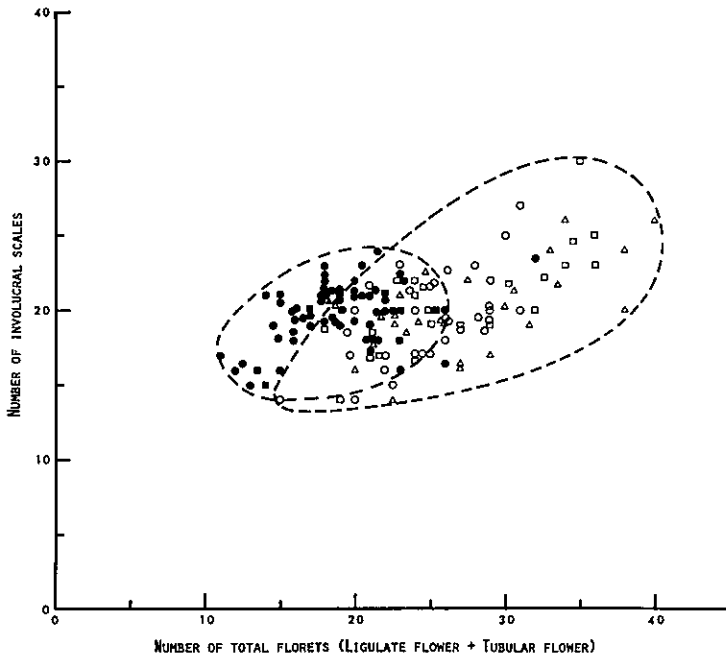


Fig. 5. Scatter diagram showing variations in number of total florets (ligulate flowers + tubular flowers) and in number of involucrel scales

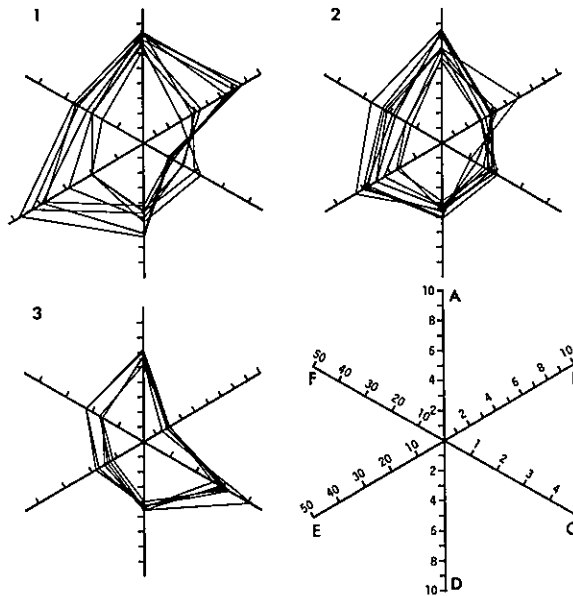


Fig. 6. Polygraphs showing variations in six different morphological characters. A. Length of internal involucrel scales; B. Length of external involucrel scales; C. Ratio of internal/external involucrel scales; D. Length of pappus; E. Number of florets; F. Number of total involucrel scales 1. *Ssp. leiocarpa* from Sikka, Sakhalin; 2. *Ssp. leiocarpa* from Mts. Daisetsu, Hokkaido; 3. *Ssp. gigantea* from Lake Shikotsu, Prov. Iburi, Hokkaido.

参考文献

林 一彦, 1976. 富山県下におけるアキノキリンソウ (広義) の分布と生態について. 北陸の植物 23: 62-74.

林 一彦, 1977. 青森県下におけるアキノキリンソウ (広義) の外部形態の変異と分布; 大阪学院大学人文自然論叢 4: 45-58.

林 一彦, 1978. 石川県下におけるアキノキリンソウ (広義) の外部形態の変異と分布. 北陸の植物 25: 209-220.

河野 昭一・高須 英樹, 1972. アキノキリンソウの実験分類学的研究. 日本植物分類学会報. 2: 105-114.

KITAMURA, S. 1937. Compositae Japonicae. I. Mem. Coll. Sci., Kyoto Univ., Ser. B, 8: 1-399.

KITAMURA, S. 1957. Compositae Japonicae. VI. Mem. Coll. Sci., Kyoto Univ., Ser. B, 24: 56.

北村 二郎・村田 源・堀 勝, 1957. 原色日本植物図鑑 (上) 保育社

大井次郎, 1975. 日本植物誌. 顕花編. 改訂増補新版. 至文堂.

高須 英樹, 1975. 日本産アキノキリンソウ属について I. 河原型集団の解析. 植物分類地理 27: 21-28.

Summary

1. The variation in several gross morphological characters and geographical distribution of *Solidago Virgaurea* L. *sensu lato* in Northern Pacific Asia, i. e., Hokkaido, Sakhalin, the Kuriles, and Kamtschatka Peninsula were studied critically based on the herbarium specimens preserved in SAPA.

2. Measured characters were as follows: height of plants, diameter of stems, length and width of leaves, length of petioles, number of serrations, length of the maximum stem internodes, length of upper branches of the stems, total number of florets (ligulate + tubular), number of involucrel, length of tubular flowers, length of pistils, length of pappus, length of ligulate flowers, length of internal and external involucrel scales, and ratio of internal/external

involucral scales.

3. As a result, it became evident that ssp. *gigantea* which has thus far been regarded to occur only in maritime grasslands of northern Honshu and south-western Hokkaido extends rather widely over the lowlands in northern as well as eastern Hokkaido, and also in Isl. Kuna-shiri, the Kuriles; whereas, ssp. *leiocarpa*, an alpine subspecies, occurs primarily in the alpine-subalpine zones of Hokkaido, but it also grows in the lowlands in eastern part of Hokkaido. This subspecies most predominantly occurs over the Kurile Islands, Kamtschatka, and Sakhalin.

4. It is noteworthy that the size and shape of external involucral scales of ssp. *leiocarpa* from northern Hokkaido and Sakhalin are very characteristic, i. e., they are often much larger than internal involucral scales (ranging 5.5-6.9 mm in length), and also are typical lanceolate with attenuate tip. The ratio of internal/external involucral scales in ssp. *leiocarpa* ranges from 1.65 to 1.89, and it is clearly discontinuous from that of ssp. *gigantea* (i. e., 2.16-2.84) (cf. Figs. 1, 2 and 3). Thus, the taxonomic re-definition of ssp. *leiocarpa* may become necessary in the future.

○ トゲナシテリハノイバラ (大石俊雄) Toshio OHISHI: A New Forma of *Rosa wichuraiana*

昭和44年4月27日、福島県伊達郡保原町の粟座山で、私はテリハノイバラの枝に全く刺が見られない一品を採集した。早速、その標本を、故大井次三郎先生に御送りした所、"御標本は全く刺がなく、刺のないテリハノイバラは未だ名がない様で御座います。トゲナシテリハノイバラとしましたら如何かと存じます" という御返書を頂戴した。しかし、その後御発表がないまゝ、御逝去なされてしまった。私は御生前一方ならぬ御教示をいたしているが、先生の御温顔を只今追憶しながら、こゝに発表させていたゞくことにする。

Rosa wichuraiana CREP. form. *ohwii* OHISHI form. nov.

A typo differt ramis inermibus.

Nom. Jap.: Togenashi-teriha-noibara (OHWI, 1969)

Hab.: Waradayama, Hobara-machi, Date-gun, Fukushima Prefecture (Toshio OHISHI: Apr. 27, 1969; Holotype in KANA no. 95320)

○ ソヨゴの一新品種 (渡辺定路) Sadamichi WATANABE: A New Forma of *Ilex pedunculosa*

大飯原電の裏側の上部はスグジイ、アカマツの混交林である。この林内にはヒメユズリハ、コバノミツバツツジ、ヤマツツジ、コバノガマズミ、ミヤマガマズミ、サカキ、ヒサカキ、ソヨゴ、クリ、タカノツメ、ヤブムラサキ、ウラジロ、コシダ等が生育している。

ソヨゴの果梗は通常2~5cmであるが、ここに果梗が6~8.5cmにも達するものが見られたので、ソヨゴの品種として報告する。

Ilex pedunculosa MIQ. form. *longipedunculata* Sadamichi WATANABE form. nov.

Pedunculi 6-8.5 cm longi, cetera ut in typo.

Nom. Jap. Nagae-Soyogo

Hab. Honshu: Kannoura, Takahama-cho, Ooigun, Fukui Pref. (Sadamichi WATANABE; Aug. 8, 1980; Holotype in KANA no. 95310)

○ 伊吹山の生物相とその保全—伊吹山総合学術調査報告書— B5版, 232頁(内カラー写真4頁, 白黒写真28頁)。昭和55年8月10日、伊吹山を守る会発行。

本書の序文によると"伊吹山を守る会—事務所滋賀縣坂田郡伊吹町役場"は中日新聞によって企画された"伊吹山を守ろう"キャンペーンを契機に、近隣する関ヶ原町、春日村、伊吹町が相共鳴し結成されて以来、伊吹山の動植物の分布・生態系の資料の収集および自然保全に関する調査研究を進めて来た結果が集大成されて発刊されたと記している。植物では、本会々員の元岐阜大学教授岩田悦行・滋賀縣立長浜高等学校教諭村瀬忠義の両氏を中心となり、第1章より第5章までを担当されていて、植物相・植生およびその遷移系列と管理に関する調査・試験を記述されている。なお、6~8章は動物、9章は伊吹山自然保全に関する提言となっている。(里見)